

2020 年度 入学 試験 問題

日本史 B

(試験時間 10:30~11:30 60分)

1. この問題冊子が、出願時に選択した科目のものであることを確認のうえ、解答してください。
2. 解答用紙には、記述解答用紙とマーク解答用紙の2種類があります。
3. 解答は、必ず解答欄に記入およびマークしてください。解答欄以外への記入およびマークは無効となります。
4. 解答は、HBの鉛筆またはシャープペンシルを使用し、訂正する場合は、プラスチック製の消しゴムを使用してください。特に、マーク解答用紙には鉛筆のあとや消しくずを残さないでください。
5. 解答用紙を折り曲げたり、汚したりしないでください。また、マーク解答用紙を記述解答用紙の下敷きに使用しないでください。
6. 解答用紙には、必ず受験番号と氏名を記入およびマークしてください。
7. マーク解答用紙への受験番号の記入およびマークは、コンピュータ処理上非常に重要なので、誤記のないようにしてください。
8. 一度記入したマークを修正する場合、しっかりと消してください。消し残しがあると、マーク読み取り装置が反応して解答が無効となることがあります。

I 次の文章を読み、下記の設問に答えなさい。解答は、マーク解答用紙にマークしなさい。(36点)

古代から中世にかけての日本では、公家社会をはじめ、武家社会、あるいは荘園、惣村など様々な社会集団・地域において独自の法令がつくられ、併存し、他の法令に影響を与える場合もあった。

① 推古天皇の時代、厩戸王（皇子）や大臣の [1] らは、協力して政治改革を進めるなかで、604年に憲法十七条を定めた。

②
その後、671年に天智天皇が亡くなると、壬申の乱に勝利した大海人皇子が天武天皇として即位し、中央集権的国家体制が形成されていった。天武天皇は手に入れた権力を背景として律令政治の推進をはかり、その一環として [2] の編纂が始まり、 [3] 天皇の時に施行された。

[3] 天皇のあとをついだ文武天皇の時、大宝律令が701年に完成した。律と令がともに日本ではじめて編纂されたことにより、律令制度による政治体制が確立した。つづいて、718年には養老律令が成立、757年に施行された。

⑤
しかし、律令制定後も社会の変化に応じて新たな法令が多く出されたため、法制の整備が進められ、820年に弘仁格式が編纂された。

⑥
10世紀半ばころになると、朝廷から出された法令はしだいに [4] と呼ばれるようになり、鎌倉時代にも引き続き出されたが、こうした律令の系譜をひく朝廷の法を公家法という。ただし、 [4] と称する法令は、やがて鎌倉幕府も発布するようになる。

一方、武家社会では1232年に御成敗式目（貞永式目）51カ条が制定された。この法令が適用されたのは幕府の勢力範囲内に限られ、朝廷の支配下では公家法、荘園領主の支配下では本所法がそれぞれ効力をもっていた。だが、幕府の勢力拡大とともに⑨
広く社会に伝わった御成敗式目は、公家法などに大きな影響を与えることとなり、さらに室町幕府など、のちの時代にも基本法典として引き継がれていった。

⑩
また、鎌倉時代末期から畿内およびその周辺域において、農民たちが自立的・自治的な村としてつくり出した惣村では、村民の会議である [5] をひらいて独自の惣掟（村法・村掟）を定め、違反者には惣が処罰をおこなうこともあった。⑪

応仁の乱後には、各地に戦国大名が台頭してくるが、彼等の中には領国統治のために分国法を制定する者もあった。その内容は、御成敗式目以来の幕府法を継承した法や、その地域に従来からあった慣行を取り入れて規定している法も多かった。

問1 下線部①の時代の文化に関する次の説明のうち、正しいものにはイ、誤っているものにはロをマークしなさい。

- a 百済や高句麗、中国の南北朝時代の文化の影響を多く受けている。
- b 彫刻では、塑像や乾漆像の仏像が多くつくられるようになった。
- c 寺院建築は、礎石の上に柱を立て、屋根に瓦を葺く新しい技法が使用されていた。

問2 文中の空欄 に入るもっとも適切な人名を、次の中から1つ選び、その記号をマークしなさい。

- a 物部守屋
- b 高向玄理
- c 蘇我馬子
- d 小野妹子
- e 中臣鎌足

問3 下線部②に関する次の説明のうち、正しいものにはイ、誤っているものにはロをマークしなさい。

- a 条文のなかで、官吏としての心構えや天皇に服従することなどを示した。
- b 儒教の教えを政治理念として重んじ、仏教を排斥する意図が込められていた。
- c 第一条には「和を以て貴しとなし、忤さわふること無きを宗とせよ」と書かれている。

問4 下線部③に関する次の説明のうち、正しいものにはイ、誤っているものにはロをマークしなさい。

- a 大海人皇子は吉野で挙兵し、美濃に移って東国の兵を結集した。
- b 大友皇子は大津の近江朝廷を率いて戦った。
- c 乱に勝利した大海人皇子は、翌年、近江大津宮で即位した。

問5 下線部④に関する次の説明のうち、正しいものにはイ、誤っているものにはロをマークしなさい。

- a 天武天皇は八色の姓を定めて、豪族たちの身分の序列を再編した。
- b 天武天皇は中国の都城制にならった藤原京を造営し、遷都した。
- c 天武天皇は国家体制の充実をはかって、和同開珎を鑄造した。

問6 文中の空欄 に入るもっとも適切な語を、次の中から1つ選び、その記号をマークしなさい。

- a 類聚三代格
- b 庚午年籍
- c 近江令
- d 令集解
- e 飛鳥浄御原令

問7 文中の空欄 に入るもっとも適切な天皇を、次の中から1つ選び、その記号をマークしなさい。

- a 持統
- b 皇極
- c 聖武
- d 光仁
- e 桓武

問8 下線部⑤に関する次の説明のうち、正しいものにはイ、誤っているものにはロをマークしなさい。

- a 養老律令は、藤原百川が中心となってまとめられた。
- b 養老律令は、大宝律令の内容とあまり変わらないものだった。
- c 養老令の公式の解釈書として、のちに『令義解』がつくられた。

問9 下線部⑥に関する次の説明のうち、正しいものにはイ、誤っているものにはロをマークしなさい。

- a 律令条文の補足や改正のために出された法令を式という。
- b 醍醐天皇のもとで弘仁格式がまとめられた。
- c 弘仁格式は、三代格式のうちの1つである。

問10 文中の空欄

4

 に入るもっとも適切な語を、次の中から1つ選び、その記号をマークしなさい。

- a 宣旨
- b 式目追加
- c 新制
- d 院宣
- e 綸旨

問11 下線部⑦の時代の文化に関する次の説明のうち、正しいものにはイ、誤っているものにはロをマークしなさい。

- a 伏見天皇は書道において、宋の書風を取り入れた青蓮院流を創始した。
- b 高階隆兼によって『春日権現験記』が制作された。
- c 定朝が寄木造の手法を完成させたことで、仏像の大量需要に対応できるようになった。

問12 下線部⑧に関する次の説明のうち、正しいものにはイ、誤っているものにはロをマークしなさい。

- a 源頼朝以来の先例や武家社会の道理を、裁判の基準として明文化した。
- b 御家人と荘園領主とのあいだの紛争については、裁判をおこなわないと規定されていた。
- c 北条泰時は、六波羅探題の北条重時に式目制定の趣旨について記した書簡を送った。

問13 下線部⑨に関する次の説明のうち、正しいものにはイ、誤っているものにはロをマークしなさい。

- a 平安時代末期以降、多くの荘園で、耕地の大部分が徴税単位である名に編成された。
- b 官物や臨時雑役の免除である不入を政府から承認してもらう荘園もあった。
- c 荘園内では目代の指揮のもとで、下司・公文が経営の実務を担った。

問14 下線部⑩に関する次の説明のうち、正しいものにはイ、誤っているものにはロをマークしなさい。

- a 室町幕府は、所領の訴訟を審理する中央機関として問注所をおいた。
- b 室町幕府は、国家的行事の際に臨時の税として、段銭・棟別銭を全国的に賦課することもあった。
- c 室町幕府の地方機関である鎌倉府は当初、関東8ヵ国と信濃・甲斐を管轄した。

問15 下線部⑪に関する次の説明のうち、正しいものにはイ、誤っているものにはロをマークしなさい。

- a 村の祭礼や行事などをおこなった宮座は、惣村の結合の中心的役割を果たした。
- b 領主に対して、惣村が年貢・公事などの納入をひとまとめにして請負うこともしばしばおこなわれた。
- c 惣村の運営のために、本百姓と呼ばれる指導者が村の中から選出された。

問16 文中の空欄 に入るもっとも適切な語を、次の中から1つ選び、その記号をマークしなさい。

- a 評定
- b 一揆
- c 陣定
- d 寄合
- e 自検断

問17 下線部⑫に関する次の説明のうち、正しいものにはイ、誤っているものにはロをマークしなさい。

- a 戦国大名は、新たに占領した土地の検地を実施し、それと並行して村の境界を定める村切をしばしばおこなった。
- b 戦国大名のなかには、家臣への軍役負担などの基準として貫高を利用する者もあった。
- c 戦国大名は、有力家臣を寄親として、その下に下級武士を寄子として配属し、組織化した。

問18 下線部⑬に関する次の説明のうち、正しいものにはイ、誤っているものにはロをマークしなさい。

- a 三好氏は『新加制式』を制定した。
- b 大内氏は『塵芥集』を制定した。
- c 徳川氏は『甲州法度之次第』を制定した。

Ⅱ 次の文章を読み、下記の設問に答えなさい。解答は、マーク解答用紙にマークしなさい。(24点)

5代将軍徳川綱吉治世の初期は、大老 の補佐のもとで天和の治と呼ばれる文治政治がおこなわれた。 の死後は、柳沢吉保を側用人として重用し、綱吉の政治は次第に独裁的なものとなっていった。

綱吉は儒教にもとづく政治を進めるため、江戸に湯島聖堂を建て、 を大学頭に任じ、儒学を奨励した。また、綱吉は仏教の影響から生類憐みの令を出し、神道の影響から服忌令を出した。

綱吉の死後、6代将軍徳川家宣、7代将軍徳川家継のもとでも文治政治が受け継がれ、儒学が重視され、儀礼や制度の整備によって将軍の権威を強化する改革がおこなわれた。この時代の文治政治を正徳の治という。

政治の安定と経済の発展を背景に、この時代においては文化の担い手が、公家、僧侶、武士だけでなく、一般の町人などにも広がった。この時代の文化を元禄文化という。

文学では、井原西鶴、松尾芭蕉、近松門左衛門の作品が著名である。西鶴は、男女の情愛の世界や、金銭に執着しながら自らの才覚で生き抜く町人の世界を描いた。芭蕉は、わび・さび・軽みを中心とする蕉風を確立し、俳諧を文学にまで高めた。近松は、人形浄瑠璃や歌舞伎の脚本を執筆した。

絵画では尾形光琳が装飾性豊かな画法を取り入れ、琳派をおこした。学問では儒学が発達したほか、人々の日常生活に役立つ実学が発達した。

問1 文中の空欄 に入るもっとも適切な人名を、次の中から1つ選び、その記号をマークしなさい。

- a 堀田正俊 b 保科正之 c 酒井忠清

問2 下線部①に関する次の説明のうち、正しいものにはイ、誤っているものにはロをマークしなさい。

- a 金銀貸借の紛争を当事者間で解決することを禁止する相対済し令が出された。
- b 徳川幕府ではじめて殉死を禁止した。
- c 忠孝・礼儀を重視する法令が出された。

問3 文中の空欄 に入るもっとも適切な人名を、次の中から1つ選び、その記号をマークしなさい。

- a 林羅山
- b 林鶯峰
- c 林鳳岡

問4 下線部②に関する次の説明のうち、正しいものにはイ、誤っているものにはロをマークしなさい。

- a この法令は、捨子の保護も内容に含むものである。
- b この法令は、近親者に死者があったときの喪や忌引の日数を定めている。
- c この法令は、8代将軍徳川吉宗の時代に廃止された。

問5 下線部③に関する次の説明のうち、正しいものにはイ、誤っているものにはロをマークしなさい。

- a 徳川家宣は、5代将軍徳川綱吉の甥であった。
- b 徳川家宣の将軍在職期間は、3年余りであった。
- c 徳川家宣が登用した新井白石は、木下順庵のもとで朱子学を学んだ。

問6 下線部④に関する次の説明のうち、正しいものにはイ、誤っているものにはロをマークしなさい。

- a 天皇家との結びつきを強めることで将軍の権威を高めようとした。
- b 朝鮮国王から将軍への国書の宛名を、「日本国王」から「日本国大君」に改めさせた。
- c 将軍の側近を拡充させるため、側用人の下に御用取次をおいた。

問7 下線部⑤に関する次の説明のうち、正しいものにはイ、誤っているものにはロをマークしなさい。

- a 元禄文化は、従来のわが国の文化と比べて海外の文化の影響をより強く受けている点に特徴がある。
- b 武士は都市生活者として学問や教養を身につける知識人となった。
- c 文化が広範な層に受容された背景には、紙の生産や印刷技術の発展があった。

問8 下線部⑥に関する次の説明のうち、正しいものにはイ、誤っているものにはロをマークしなさい。

- a 井原西鶴の創作した小説は、仮名草子と呼ばれるものである。
- b 井原西鶴は、もともとは俳諧師として活躍していた。
- c 井原西鶴の作品には、『日本永代蔵』などの世話物がある。

問9 下線部⑦に関する次の説明のうち、正しいものにはイ、誤っているものにはロをマークしなさい。

- a 松尾芭蕉は、『奥の細道』や『笈の小文』といった俳諧紀行文を著した。
- b 蕉風以前の俳諧においては、貞門派と談林派が対抗していた。
- c 俳諧は、川柳から派生したものである。

問10 下線部⑧に関する次の説明のうち、正しいものにはイ、誤っているものにはロをマークしなさい。

- a 近松門左衛門は、現実の社会や歴史に題材を求めた。
- b 近松門左衛門の作品は、人形遣いの竹本義太夫らによって演じられた。
- c 心中を題材とする作品は、のちに幕府によって出版と上演が禁止された。

問11 下線部⑨に関する次の説明のうち、正しいものにはイ、誤っているものにはロをマークしなさい。

- a 尾形光琳は、俵屋宗達の画風を取り入れた。
- b 尾形光琳は、蒔絵でも優れた意匠の作品を残した。
- c 尾形光琳は、幕府の御用絵師として活躍した。

問12 下線部⑩に関する次の説明のうち、正しいものにはイ、誤っているものにはロをマークしなさい。

- a 本草学の分野では、貝原益軒が『大和本草』を著した。
- b 和算の分野では、関孝和が『塵劫記』を著した。
- c 天文・暦の分野では、渋川春海が貞享暦をつくった。

Ⅲ 次の文章を読み、下記の設問に答えなさい。解答は、マーク解答用紙にマークしなさい。(10点)

1886～89年には鉄道や紡績を中心に会社設立ブームがおこり、機械技術を本格的に用いる産業革命が日本でもはじまった。その後、1890年の恐慌を経て、日清戦争後には鉄道や紡績などでふたたび企業勃興が生じた。なお、工業の発達に欠かせない金融・貿易面の支援に関して、政府は日清戦争で得た賠償金の一部を準備金として、1897年に金本位制を確立し、貨幣価値の安定と貿易の発展をはかっている。

日本の産業革命の中心は、綿糸を生産する紡績業であった。1883年に開業した大阪紡績会社が大規模経営に成功したことに刺激されて、大阪などを中心に商人が会社を設立する動きが高まり、機械制生産が急増した。

鉱工業では、とくに、1884年頃からの官営事業払下げにより優良鉱山の払下げを受けた三井・三菱・古河などは、巻上機の導入など機械化を進めて、石炭や銅の輸出を増やしていった。このようにして鉱工業の基盤をもつことになった三井らは、財閥に成長した。また、北九州の筑豊一帯では排水用蒸気ポンプの導入に成功したのを契機に炭鉱開発が進み、筑豊炭田は日清戦争後に国内最大の産炭地になった。その筑豊炭田を背後にひかえる北九州には、1897年、重工業の基礎となる鉄鋼の国産化をめざし、官営八幡製鉄所が設立された。

問1 下線部①に関する次の説明のうち、正しいものにはイ、誤っているものにはロをマークしなさい。

- a 欧米との貿易を円滑にするためには、欧米諸国にならった金本位制を採用することが必要であった。
- b 日本勧業銀行が中心となって貿易金融に当たった。
- c 政府は海運業を奨励し、日本郵船会社などが遠洋航路を開いていった。

問2 下線部②に関する次の説明のうち、正しいものにはイ、誤っているものにはロをマークしなさい。

- a 大阪紡績会社は、渋沢栄一らにより設立され、イギリス製の最新式紡績機械を導入した。
- b 大規模な機械紡績工場の増加とともに、臥雲辰致が発明したガラ紡は衰退していった。
- c 農村では、日露戦争後、豊田佐吉らが考案した国産力織機により、綿織物の小工場が発展した。

問3 下線部③に関して、次の事業所と払下げ先の組み合わせのうち、誤っているものを1つ選び、その記号をマークしなさい。

- a 阿仁銅山—古河
- b 三池炭鉱—三井
- c 佐渡金山—三菱
- d 生野銀山—浅野

問4 下線部④に関する次の説明のうち、正しいものにはイ、誤っているものにはロをマークしなさい。

- a 三菱は、江戸時代以来の豪商であり、政府の手厚い保護を受けた。
- b 住友は、鉱山経営で富を得て、財閥に発展する基礎をきずいた。
- c 三井は、三井合名会社による株式所有を通じて、さまざまな分野の多数の企業を支配するコンツェルン形態をととのえた。

問5 下線部⑤に関する次の説明のうち、正しいものにはイ、誤っているものにはロをマークしなさい。

- a 八幡製鉄所の建設資金の一部には、日清戦争の賠償金も当てられた。
- b 日露戦争後に設立された民間の製鋼会社には、日本製鋼所などがある。
- c 政策的に重視されていた造船技術は、日清戦争前後には世界的水準に追いついた。

IV 次の文章を読み、下記の設問に答えなさい。問1～問6はマーク解答用紙にマークしなさい。問7は記述解答用紙に答えなさい。(30点)

北伐終了後、国民政府は日本が掌握している満州の権益を取り戻すと宣言し、中国における民族運動はさらなる高揚をみせた。こうした中国の動きに危機感を強めた関東軍が、武力を用いて満州を中国の主権から切り離し日本の勢力下におこうと企てたことから、満州事変が^①はじまった。しかし、国際的には日本の主張は受け入れられなかったため、日本は1933年3月に国際連盟からの脱退を通告した。

その後、関東軍は勢力をさらに華北に拡大しようとしたことから、日中両国の関係はいっそう悪化し、1937年には日中戦争が^②はじまった。日本軍は首都の南京を占領したが、国民政府は漢口、さらに重慶へと退き抗戦を続けた。

一方で、日本は、ドイツおよびイタリアと日独伊三国同盟を結び、南方に進出してゴム・石油・^{すず}錫などの軍需物資の入手等を企てたが、同盟の締結はアメリカの強い反発を招いた。近衛内閣は日米衝突を回避するための交渉を開始したが、交渉は進展せず、さらに日本が南部仏印進駐に踏み切ったこともあってアメリカはますます態度を硬化させたことから、1941年12月、日本はアメリカおよびイギリスに宣戦を布告し^④た。太平洋戦争がはじまると、日本軍は東南アジアから南太平洋にかけての広大な地域を制圧して軍政下におき、日本における東条内閣の人気も高まった。

しかし、国力に勝るアメリカが本格的な反攻に転ずると日本軍は戦線の後退を余儀なくされた。さらに、戦争が長引くにつれ、兵士として動員可能な人員や国内の工場^⑤で働ける労働者の不足が顕著となり、国民生活も窮乏の度合いを増していった。ヨーロッパではドイツが降伏し、沖縄がアメリカ軍に占領された後も、なお軍部は本土決戦を主張したが、アメリカ軍による本土空襲で国土が荒廃した日本にもはや戦いを^⑥続ける余力はなく、日本は1945年8月に、日本軍への無条件降伏勧告と日本の戦後処理方針からなるポツダム宣言を受諾した。

降伏した日本は、ポツダム宣言にもとづいて連合国に占領されることとなったが、事実上はアメリカ軍による単独占領であった。占領は、マッカーサー元帥を最高司令官とする連合国軍最高司令官総司令部（GHQ）の指令・勧告にもとづき日本政府が政治をおこなう間接統治の形が採られたが、その占領政策は、アメリカとソ連の対立^⑦

が激化した1948年ころを境として大きく転換した。

問1 下線部①に関する次の説明のうち、正しいものにはイ、誤っているものにはロをマークしなさい。

- a 関東軍は石原莞爾が中心となり、柳条湖で鉄道線路を爆破し、これを中国軍のしわざとして軍事行動を開始した。
- b 関東軍は溥儀を皇帝とし、満州国の建国を宣言させた。
- c 満州事変を終息させた日中軍事停戦協定（塘沽停戦協定）では、非武装地帯を設定し、その治安維持には日本の警察が当たることとされた。

問2 下線部②に関する次の説明のうち、正しいものにはイ、誤っているものにはロをマークしなさい。

- a 盧溝橋事件が起きると、近衛内閣は直ちに兵力を増派し、中国軍に対する戦線を拡大する方針を示した。
- b 中国側は、国民党と共産党が提携して抗日民族統一戦線を結成し、日本に宣戦布告をおこなった。
- c 日本は、汪兆銘を首班とする親日の新国民政府を南京に樹立した。

問3 下線部③に関する次の説明のうち、正しいものにはイ、誤っているものにはロをマークしなさい。

- a 最初に日本・ドイツ間で同盟が結ばれ、1年後にイタリアも同盟に参加した。
- b 日本・ドイツ・イタリアの3国は、ヨーロッパとアジアの「新秩序」における指導的地位を相互に認め合った。
- c アメリカおよびソ連の両国を仮想敵国とする軍事同盟であった。

問4 下線部④に関する次の説明のうち、正しいものにはイ、誤っているものにはロをマークしなさい。

- a 開戦時に出された「宣戦の詔書」においては、戦争の主たる目的は、日本の自存自衛のためとされていた。
- b 日本軍の海上における優勢は、ミッドウェー海戦を機に失われた。
- c 開戦後間もなくおこなわれた総選挙（翼賛選挙）では、鳩山一郎や芦田均など、政府の援助を受けた推薦候補が絶対多数を獲得した。

問5 下線部⑤に関する次の説明のうち、正しいものにはイ、誤っているものにはロをマークしなさい。

- a 政府は労働力の不足を補うため、中等学校以上の生徒・学生を軍需工場などに動員した。
- b 政府は労働力の不足を補うため、既婚女性による女子挺身隊を組織し、軍需工場などに配置した。
- c 既に開戦前から米が配給制となり、次いでぜいたく品の製造や販売が禁止されていた。

問6 下線部⑥に関する次の説明のうち、正しいものにはイ、誤っているものにはロをマークしなさい。

- a サイパン島がアメリカ軍に占領されて以降、米軍機による本土空襲が本格化した。
- b 既にポツダム宣言以前にヤルタでアメリカ・イギリス・ソ連の3か国の首脳会談がおこなわれ、満州・台湾の中国返還、朝鮮の独立という処分方針が決定されていた。
- c ソ連はポツダムでの会談に参加していたが、日ソ中立条約が有効であったため、日本がポツダム宣言を受諾する時まで宣言には加わらなかった。

問7 下線部⑦に関して、占領政策の転換の前後で、労働者の争議権はそれぞれの
ようなものであったか。㊸転換前の争議権の取扱い、㊹転換後の争議権の取扱い
のそれぞれについて、関係する法令の名前もあげながら、20字～30字（句読点
を含む）で説明しなさい。



